

生活科学学習指導案

授業Ⅱ

1年1組 31名 指導者 木場 幸乃

本授業は、以下の検証を行うものである。
探検活動の後に振り返りの時間を設定し、気付きを共有化し、今後のことについて考えることは、探検活動での「成功体験」を新たな「思いや願い」につなげるための手立てとして有効であったか。

1 単元 しゅっぱつ がっこうたんけんたい

2 目標

学校の施設や通学路の様子及び学校生活を支えている人々のことが分かり、楽しく安心して遊びや生活ができるとともに、安全な登下校ができるようにする。

3 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none">○ 学校の施設、先生や友達のこと が分かり、学校での生活は、様々 な施設や人と関わっていること に気付いている。○ 通学路の様子や危険な箇所、安 全を守っている施設や人々と自 分との関わりに気付いている。	<ul style="list-style-type: none">○ 学校の施設や学校生活を支え る人々、友達との関わりについ て、自分なりに考えたりすなおに 表現したりしている。○ 安全な登下校について自分な りに考えたりすなおに表現した りしている。	<ul style="list-style-type: none">○ 学校の施設、先生や友達などに関心 をもって関わろうとし、楽しく生活し ようとしている。○ 通学路の様子やその安全を守って いる人々に関心を持ち、安全な登下校 をしようとしている。

4 単元について

(1) 単元について

本単元は、内容(1)「学校と生活」を受けて構成されている。単元の構成に当たっては、入学直後の1年生が学校生活に関わる活動を通して、学校での生活は様々な人や施設と関わっていることが分かり、楽しく安心して遊びや生活をしたり、安全な登下校をしたりすることを目指している。

学校探検を通して、学校の施設や学校生活を支えている人々に関わることで、学校の施設や学校にいる様々な役割をもつ人々を知り、楽しく安心して学校生活を送ることにつながると思う。また、通学路にある安全を守っている人々や施設が分かることで、ルールやマナーを守って安全に登下校できるようになると考える。

(2) 子供について

本学級の子供は、学校にある様々なものや施設、設備の様子に興味をもっており、学級全体で学校内を移動することを探検活動のように楽しんでいる。また、学級の友達や上級生と一緒に遊ぶことを楽しんだり、気付いたことや感じたことをすなおに言葉等にして表現したりする姿が見られる。しかし、自分たちで他の学年の教室や行ったことのない場所へ行ったり、自分から進んで担任以外の先生に関わろうとしたりする姿はあまり見られない。

そこで、具体的な活動である探検活動と、そこで気付いたことを振り返り伝え合う活動を繰り返すことで、一つ一つの気付きを自分との関わりで捉え、安心して学校生活を送ることができるようにするとともに、学級の友達や上級生だけでなく、学校生活を支えている人々にも進んで関わることができるようにする。

(3) 指導について

本単元では、学校探検や通学路探検を通して、学校や通学路にあるものを見付けたり、そこにいる人と触れ合ったりする。その中で、学校の施設や先生、友達などに関心をもって関わろうとすることや自分なりの「思いや願い」をもって施設を利用すること、ルールやマナーを守って生活することや、安全に登下校することをねらいとしている。

そこで、である・みつける過程では、「教室の近くにはどんなものや場所があるのかな。」「今日の健康診断で使う部屋に行ってみよう。」など、自分の学校生活との関わりをきっかけとして、学校探検をスタートすることができるようにする。かかわる過程では、2年生と一緒に探検、1年生だけの探検、インタビューを目的とする探検と、学校探検の活動を繰り返していく。それ

それぞれの探検活動の後には、学級全体で振り返り伝え合う活動を設定するようにする。その際、気付いたことを絵や言葉等で表現したり、友達の気付きと比べたり関連付けたりすることで、気付きの質を高め、次の探検への新たな「思いや願い」をもつことができるようにする。つたえあう・つなげる過程では、インタビューを行って分かったことを伝え合ったり、通学路探検を行ったりする。そうすることで、学校生活を支える人々の役割や思いを知り、安心して学校生活を送ることができるようにする。また、通学路にある安全を守っている人々や施設が分かることで、ルールやマナーを守って安全に登下校をすることができるようにする。

5 指導計画（総時数 12 時間）

ア～ホ：重点化する「学習の基盤となる資質・能力」

過程	主な学習活動【評価規準】	時間	基盤となる資質・能力		
			言語	情報	問題
であう・みつける	1 教室の周りの探検をする。 【態：教室の周りの施設に関心をもち、楽しく学校生活を送ろうとしている。】	0.5		ハ	ホ
	2 健康診断や集会で行く場所を探検する。 【知：学校の施設の位置や働きなどが分かっている。】	0.5		ハ	ホ
かかわる	3 2年生と1回目の学校探検をする。 【態：2年生と仲良く学校探検をしようとしている。】	2	チ	ハ	
	4 探検で見付けたものや感想を発表する。 【思：学校探検を通して、見付けたものや楽しかったことなどを友達にすなおに伝えている。】	1	ケ		ホ
	5 2回目の学校探検の計画を立て、準備をする。 【思：行ってみたい場所を選んで、自分なりの探検計画を立てている。】	1		ネ	ホ
	6 2回目の学校探検をする。 【態：学校の施設や先生等に関心をもって関わろうとしている。】	1	ツ	ハ	
	7 2回目の探検で見付けたものや感想を発表する。 【思：2回目の学校探検を通して、見付けたものや楽しかったことなどを自分なりの方法で表現している。】	1 (本時)	ケ		ホ
	8 3回目の学校探検（インタビュー）をする。 【思：話し方やマナーを考え、インタビューをしている。】	2	ケ	ヌ	
	9 3回目の学校探検でインタビューした人のことを発表する。 【知：学校生活を支えている人々の存在や働きなどが分かり、それらの人々と自分との関わりに気付いている。】	1	カ	ノ	
	10 みんなで通学路を歩く。 【知：自分たちの安全を守っている人々や施設などの通学路の様子に気付いている。】	2		ハ	ホ

6 本 時（7/12）

(1) 目 標

学校探検を通して、見付けたものや楽しかったことなどを自分なりの方法で表現し、新たな「思いや願い」をもつことができるようにする。

(2) 評価規準

2回目の学校探検を通して、見付けたものや楽しかったことなどを自分なりの方法で表現している。 【思考・判断・表現】

(3) 指導に当たって

であう・みつける過程では、2回目の学校探検の写真を提示することで、これまでの学習を振り返り、探検で見付けたものや楽しかったことを伝えたいという「思いや願い」をもつことができるようにする。

かかわる過程では、探検活動で気付いたことを友達に紹介する活動を行う。その際、施設の場所や役割について全員で考えることで、学校生活を安心して送ることができるようにする。また、人との関わりを紹介できた子供を称賛し、3回目の探検活動へとつなぐことができるようにする。

気付きを共有化した後に、学校にいる人についてのクイズに答える活動を取り入れる。そうすることで、まだ見付けることができている人がいることや、学校にいる人について知らないことに気付かせ、さらに探検を進めていきたいという「思いや願い」をもつことができるようにする。

つたえあう・つなげる過程では、本時の学習を振り返ることで、多くのことに気付く、発表できた達成感を味わうことができるようにする。また、先生に話を聞いてみたい、仲良くなりたいという次の活動への「思いや願い」をもつことができるようにする。

(4) 本時の展開

[] 子供の意識 ○ 指導の手立て ※評価規準

過程	時間	主な学習活動	指導の手立て
であう・みつける	5	<p>1 前時までの学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 図書室にたくさん本があったよ。 ・ 動物ランドにウサギがいたよ。 ・ 事務室っていう場所があったよ。 <p>2 本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> <p>みつけたものを みんなに しょうかいしよう。</p> </div>	<p>○ 学校探検の写真を提示し、前時までの学習を振り返ることで、これまでの学習を想起することができるようにする。</p> <p>○ 2年生の案内がなくても校内を探検したり、先生方と話したりできたことを価値付けることで、自信をもって本時の発表の活動や次の探検活動ができるようにする。</p>
かかわる	30	<p>3 学校探検で見つけたものや楽しかったことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 図書室に〇〇の絵本があったよ。うちにも同じ本があって、大好きな本なんだよ。 ・ お姉ちゃんがいる4年2組の教室を見つけたよ。 ・ 校長室には、青色のソファがあったよ。きっとお客さんがすわるんだと思うな。 ・ 給食室のお鍋やしゃもじは、みんなの分を作っているから大きいんだね。 <p>4 学校にいる人クイズをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 寺園先生と大山先生は、1年生の先生だよ。 ・ この写真の先生は、図書館の先生だね。お名前なんていうのかな。 ・ 校長先生も知っているよ。校長先生は、どんな仕事をしているのかな。 ・ まだまだお話したことない先生がいっぱいそうだな。 	<p>⑤ 探検で見つけたものや楽しかったことを付箋紙に絵や言葉でかいておくことで、話したり絵を見せたりして、伝えることができるようにする。</p> <p>○ 話合いの中で、「どうしてそこにあるのかな。」「何に使うと思う。」などと働き掛けることで、見つけたものを自分自身の学校生活との関わりで考えることができるようにする。</p> <p>※ 2回目の学校探検を通して、見つけたものや楽しかったことなどを自分なりの方法で表現している。(発表、付箋紙)</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>○ たくさんのものを見付けられたことや自分なりの方法で発表できたことを称賛することで、満足感や達成感を味わうことができるようにする。</p> <p>○ クイズで話題になった先生について「どんな仕事をしているのかな。」という働き掛けをすることで、先生の役割に着目して考えることができるようにする。</p>
つたえあう・つなげる	10	<p>5 本時の学習の振り返り、次の学校探検で行きたい場所やしたいことを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校にあるいろんなものを発見できて嬉しかったよ。 ・ 校長先生は、どんなお仕事をしているのかな。聞いてみたいな。 ・ 事務室の先生は、どんなお仕事をしているのかな。 	<p>○ 本時の学習の振り返りをする中で、本時の学びを自覚化し、次の学びへ意欲が高まるようにする。その際、次の学校探検で、どこに行きたいか、誰に会いたいかなど、どんなことを質問したいかを考えることで、3回目の学校探検を通して、学校生活を支えている人と関わることができるようにする。</p>

生活科学学習指導略案

授業 I

2年4組 26名 指導者 田代 宗輔

本授業は、以下の検証を行うものである。
 ヤギと仲良くなりたいという「思いや願い」を基に、実際にヤギと触れ合い、今後の関わり方について考える活動は、生き物への親しみをもち、大切にしようとする「学びに向かう力」を育成する手立てとして有効であったか。

1 単元 生きもの なかよし大作せん

2 指導計画 (総時数8時間) ア～ホ：重点化する「学習の基盤となる資質・能力」

過程	主な学習活動【評価規準】	時間	基盤となる資質・能力		
			言語	情報	問題
であう・みつける	1 これまでに仲良くなった生き物について振り返り、学校にやってきたヤギについて話し合う。 【態：ウサギやニワトリ(小型動物)と触れ合ったことを振り返り、ヤギ(中型動物)とも仲良くなるための計画を立てている。】	1	ケ		ホ
かかわる	2 実際にヤギと触れ合う。 【思：ヤギと触れ合った感想を、諸感覚を生かしてすなおに表現することができる。】	1 (本時)	ク	ヌ	
	3 ヤギともっと仲良くなるために必要な関わり方について、話し合ったり調べたりする。 【思：ヤギと仲良くなるために、世話の仕方を調べたり、GT(※1)に相談したりしながら考えている。】	1		ネ	
つたえあう・つなげる	4 ヤギの世話をしたり、一緒に遊んだりして関わる。 【思：ヤギと仲良くなるために調べたことを生かして、世話をしたり、遊んだりしている。】	3		ノ	ホ
	5 ヤギとお別れ会をする。 【態：ヤギとの関わりを振り返り、自分なりに別れを惜しんでいる。】	1	ソ		ホ
	6 ヤギと関わったことを振り返る。 【知：ヤギも自分たちと同じように生命をもっていることに気付くとともに、親しみをもち上手に世話ができるようになった自分のよさに気付いている。】	1	セ	ノ	

※1 GT：鹿児島大学農学部学生

3 本時(2/8)

(1) 目標

ヤギと触れ合った感想を、諸感覚を生かしてすなおに表現し、ヤギともっと仲良くなりたいという思いや願いをもつことができるようにする。

(2) 評価規準

ヤギと触れ合った感想を、諸感覚を生かしてすなおに表現している。

【思考・判断・表現】

(3) 指導に当たって

であう・みつける過程では、ヤギと触れ合う際の留意点をGTと確認することで、子供が安心して、ヤギと触れ合うことができるようにする。

かかわる過程では、実際にヤギと触れ合う視点を示し、その視点に沿って気付いたことをワークシートに記入したり、感想を話し合ったりすることで、諸感覚を生かした様々な視点で多くの気づきが生まれるようにする。

つたえあう・つなげる過程では、ヤギと触れ合った「成功体験」を確認し、今後の学習に向けて、もっと仲良くなるためにしたいことについて話し合うことで、新たな「思いや願い」をもつことができるようにする。

(4) 本時の展開

[] 子供の意識 ○ 指導の手立て ※評価規準

過程	時間	主な学習活動	指導の手立て
であう・みつける	5	1 前時の学習で生まれた「思いや願い」を基に学習のめあてを立てる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">ヤギさんとなかよくなる。</div> 2 ヤギと関わる際の注意事項をG Tとともに確かめる。 【よい】 ・ 目線を合わせると安心する。 ・ 顔や背中をなでる。 【悪い】 ・ 大声を出す。 ・ 大人数で囲む。	○ 前時の学習の様子を振り返り、ヤギを間近に見た子供のつぶやきから、ヤギと仲良くなりたいという、子供の「思いや願い」を高めることで、学習のめあてを焦点化していく。 ○ ヤギと触れ合う際の注意事項をG Tと確認することで、安心してヤギと関わるができるようにする。
かかわる	3 5	3 ヤギと触れ合う。 ・ まつ毛とひげが長いね。 ・ 背中をなでたよ。毛がごわごわしていて温かくて気持ちがいいな。 ・ 「メー。」って啼いたよ。声がすごく大きくてびっくりしたよ。 ・ 初めはこわくて触れなかったけど、友達が触り方を教えてくれたから触れたよ。 4 ヤギと触れ合った感想を話し合う。 ・ まつ毛が長くてかわいかったよ。口をもぐもぐ動かしていたから、お腹がすいているのかな。 ・ 体が大きいから触るのはドキドキしたけど、触ったら温かかったよ。生きているからだね。 ・ 大きな声で啼いたから、ぼくもびっくりして「わあ。」って声を出したらヤギさんもびっくりしていたよ。驚かせてしまったかな。 ・ 友達の触り方は上手だな。ぼくもあんな風に仲良くなりたいな。	○ ヤギと触れ合う際の視点(観察の視点)を示すことで、諸感覚を生かした様々な視点で多くの気づきが生まれるようにする。 ○ 上手にヤギと触れ合うことができる子供を紹介し、触れ合う際のポイント(気づき)をインタビューすることで、気づきを共有化することができるようにする。 ○ ヤギと触れ合う際の視点(観察の視点)を生かしたワークシートを活用することで、多くの気づきを記録できるようにする。 言 ヤギと触れ合って気付いたことを諸感覚ごとに整理し、まとめることで、様々な気づきが生まれたことを確認したり、気付いたことを全体で共有化したりすることができるようにする。 ※ ヤギと触れ合った感想を、諸感覚を生かしてすなおに表現している。(ワークシート、発言)【思考・判断・表現】
つたえあう・つなげる	5	5 本時の学習を振り返り、新たな「思いや願い」をもつ。 ・ もっと仲良くなりたいから、えさをあげたり、もっとたくさんなでてあげたりしたいな。 ・ 動物ランドは狭いから、お散歩に連れて行ってあげたいな。 ・ えさをあげたり、掃除をしてあげたりしたいな。 ・ 友達にもっと触り方を教えてもらいたいな。	○ 本時の学習を振り返り、「成功体験」を確認することで、次時の学習に向けて、もっと仲良くなりたいという新たな「思いや願い」をもつことができるようにする。 ○ 本時の活動のよさを称賛したり、気づきの質を高めることができた子供の姿を紹介したりすることで、次時の活動への意欲化を図ることができるようにする。